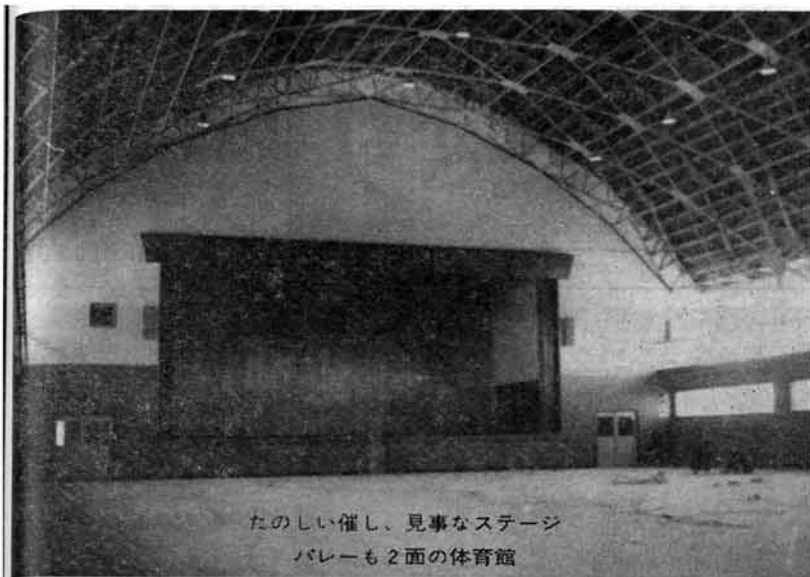


活用の日近し 体育館の完工

体育で明るい町を
脇野町 野崎

私たちの要望と町の意欲
で完工した体育館、私たち
の体力づくりの成果で明る
い町づくりをしよう。
全町こぞって利用し活用
してこそ本当の成果があが
るものと信じます。
雨にもまけず、雪にも、
風にもおびやかされずに、



たのしい催し、見事なステージ
バレーも2面の体育館

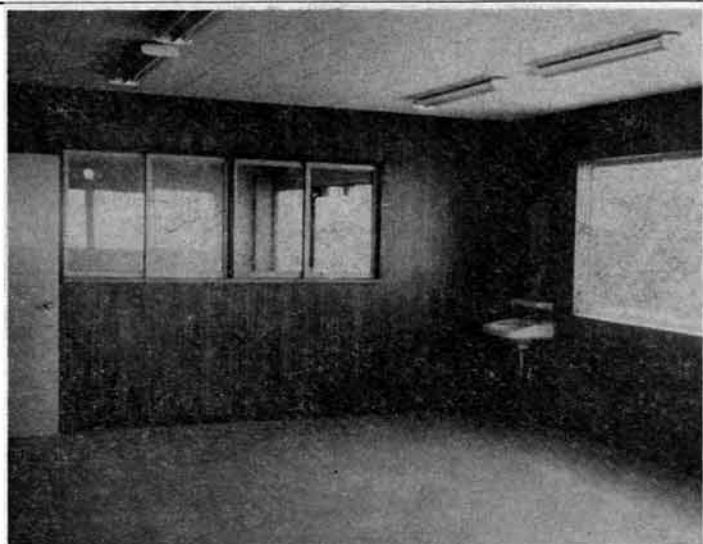
これから続々と企画され
るいろいろの催しものにも
進んで参加してゆきたい。
また広域的利用と活用も忘
れずに推進することは、体
育を通じ町の繁栄にも役立
たせたい。

老も若きも男も女も、機
会あるごとに集い、むつま
あつて、笑顔あふれる町に
したいものです。

活用しよう

松村 都夫

若者の力を存分に発揮で
きる唯一の場である体育館
ができて、より活発となる
青年団活動そしてスポーツ
に、みんなの期待も大き
い。これからは、町の大会
や郡の大会が計画され実施
されよう。



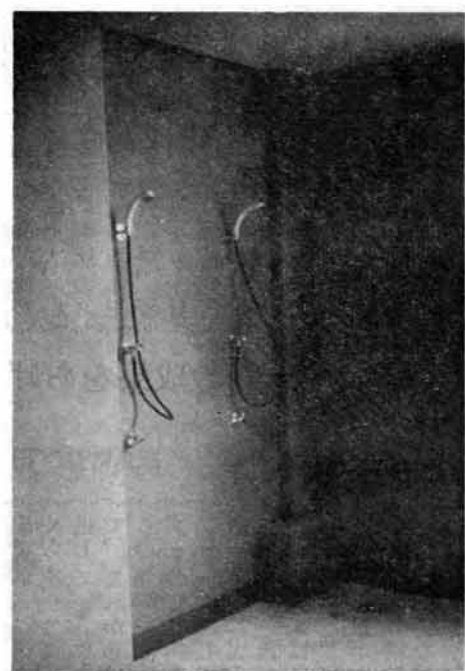
事務室内部

老も若きも共に明る
い光の下で笑顔をかわし合
い、ひたひたに汗をにじませ
ながらボールを追う、町民
のつながりもボールと共に
一層深まってゆく。「今晚
のようすが浮かんで来て、
のよすがが浮かんで来て、
みあげて来る。大いに活用
して効果をあげよう。

写真説明

中は、活用と利用が企画される事務室
(階上は選手控室、会議もできる)

下は、汗を流してさっぱりと シャワー室



ひそやかな老人のねがい

柳 幸 作

春はそこまですべて来て
いる、雪どけの道を春の日
を浴びてツエをひきな
が
完工を急がれている新体
育館の現場をおとすれてみ
ました。ほぼ完成した建物
は聞きしに優るもので、塗
装の色もあざやかに雪に映
え、天空にそびゆる体育館
の殿堂は、まずこの近郊で
は見る事ができないものと
驚きました。
このように立派な体育館
で伸びのびと背のびがで
るこれからの若い人たちは
本当にうれしそうですと
言え
願って私などすでに七十
七
回の年を重ね、余生乏し
き身で何をか言わぬやと
言
身ながら、ふと思ひだした
ことは、わが部落青島に
和と三十七年に立派な公民館
が建ったとき、小林新太郎

ありがたう

三島町体育館建設にあ
り町外の方々から、心あた
りたまるご厚志を賜りまし
た。三月一日現在で、八十五
万円の巨額となり、関係者
を感謝申し上げます。厚く
御礼申し上げます。(希望に
より芳名を伏せました。)

事故をなくして 明るい町に

交通災害共済組合

交通災害共済組合が昭和
43年9月1日に発足してか
らはやま月、わずかの掛
け金で、少しでも不幸を救
おうと努力されています。
事故、災害はいつ私たち
を襲うかわかりません。一
人でも多く加入し、すると
ともに、交通マナーを身に
つけて、実行することによ
って、災害を防ぎたいので
す。
●三島町の共済加入状況
市平均 一八・九%
町村平均 二〇・四%
三島町 四一・九%
●災害給付状況
負傷者五六四人 12月末
死者二七人 12月末
三島町では一月末で

死者 一人
負傷者 五人

一人でも多く共済に加入
すると共に、みんなが交通
マナーを身につけて、実行を
することによって、事故の
少ない明るい町にしたいの
です。
やがて小学校に新入学す
る児童、保育園にかよう園
児のお父さん、お母さん、い
まから交通マナーのしつけ
をして子供さんを事故から
守るよう心がけてください
です。さてこの写真を見て考
え

住民の声

住みたくなる町づくり

鳥越 中村 康平

私は志を立て乳牛を飼いま
だてから十七年、この間た
山針葉樹林と落葉樹
半歩ではありますが逐次規
模を拡大し、経営面から
て副から主へとかわり今
は我が家の生計の
柱となつていま
す。

期待している息
子は昨年興農館高
校に入学し、二、三年後に
は後継者として、家へは
る事となって居ります。
そこで、その受け入れ対
策をするためにこの間役場
へ行き三島町の航空写真を
見せてもらいました。
五月下旬に撮ったものら
しく田の苗代もこまかい所
は、こまかい所は、こまかい

鳥越 中村 康平
あるから植物の繁
茂に適用して牛を飼
う府も農民も何を考
えているのかと頭を傾
げざるを得ま
す。
町長は住み良い町いや
住みたくなる町づくり
の計画を、いろいろ計
画され
住みたくなる町、魅力
のある町、この

春先は
特に火の元
ご用心

私はアメリカやカナダに
比べて二十倍も三十倍も
値のある国土を有効に活
用し、住みたくなる町づく
りに一生を捧げる心算で
あります。

迅速な輸血リレーで 一命が助かる

二月七日のことでした。

長岡赤十字病院に入院中
の、当町のあるご婦人が、
子宮外妊娠で急な出血のた
め手術が不可能となり、身
内の方九人がとりあえず輸
血されましたが、絶対量
足りず、患者の容態が悪化
したので、病院では午後六
時すぎ役場へ応援を求め
てきました。
役場直員は直ちに救急
車を手配するかわり、献
血に経験のある西原治一
さん、大矢善子さん、丸山
次さん、元井忠栄さん、小
林千恵子さんの六人に電話
で連絡したところ、すぐ駆
けつけて頂き、日赤から連
絡を受けてわずか十分後
には出発できたので、患者
さんはきわどいところで一
命をとりとめることができ
ました。
その後さらに輸血の依頼
があり、星野欣治さん、米
持昭次さん、小能裕さん、
遠藤善一郎さん、日赤へ
行って頂きましたが、幸い
患者さんの容態が落ちつ
いたので輸血をして頂く
ことができました。
こうした迅速な輸血リレ
ーのできたのは、町民多数
の方から日ごろ献血につ
いて、深いご理解とご協
力を頂いて、賜物であり、
また逸早く町民の血液型
の検査を実施したり、血液
台帳を作ったりして、献血

春の防火週間 はじまる

「あなたは火事の恐ろし
さを知らない」
春の気象は火災をおこし
やすい条件を、たくさんそ
なえています。
ながい冬ごもりから解放
されて、農作業も日を追っ
ていそがしくなると、つ
れのため火元の確認が忘れ
がちとなります。
また、くん炭焼が活発
となり、作業能率に気をと
られあつてしまつておろそ
かになりがちです。
春の野焼きが思わぬ大火
災となり、しばしば大事を
おこしています。